

獨協埼玉中学校 令和4年度 第三者評価

実施日:4月21日

1. 基礎学力育成と中学から高校への移行期中弛み防止について。

方向性や対策は現状に即していると思われるので現状姿勢の追求でいいのではないか。基礎学力を有し自習姿勢も持っている生徒も存在するだろうから、将来は知識欲を満たすような自習内容が必要になるかもしれない。

学習習慣のない子には「個」で学習するよりも学校・友人などの共同自習による学習習慣を身につけた方が早い。自習スペースと時間が増えてきているのは歓迎すべきではあるが、「ないとできない」ではなく、どこでも自習ができることが重要である。また、テスト前補習は効果が出そう期待できる。

中弛み防止としての授業の枠を外した興味関心を抱く課題提供、モチベーションアップの授業展開が奏功すれば効果ありでは。「探究」に近い内容になると思われる。レベルは高いが高校生の獨協コースも参考・刺激になるのではないか。どこの学校もそうだがこの問題に対処するには教科・授業を超えた対応強化が望まれ、そのための研修を実施している学校も多い。

中高一貫組と高校入学組に明らかな学力差があるのか、あるいは混在状態か。基礎学力があまりない中学生に対しては、高校入学組と同等の基礎学力がないと後で立ち遅れる恐れがあることを認識させ、中学2・3年次に危機感を抱かせられないか。高校入試問題を解かせるのもありかもしれない。

2. 携帯電話・SNSの使用方法について。

昨年からの課題が解決しているとは言えない状態。以下昨年述べたこと以外での所感。

「SNSだから」ではなく、「SNSでなくてもコミュニケーションとして」考えることも必要なのでは。最近の事例から。

- ・通常5人でグループを組んでおり情報共有。
- ・うち一人は返信が遅いことがたびたびある。
- ・その人を外した4人グループが発生。

これを当人が知った場合、仲間外れの始まりと捉えられることもある。

この対応を検討。

- ・返信が来なくてもグループを継続すべき。
- ・そうならないように人の問いかけにはなるべく早めに応える。
- ・不通にならないよう返信過多になる過度な問いかけは控える。

これらの対応はSNSというより、「こうしたら相手はどう思う？」という道徳的な話が根幹。自身がとる行動は相手から見るとどうなるか、これを常に考える習慣が身につくとあらゆる方面で人間関係は良好になるはず。なおこうしたマナーや道徳的案件は、生徒皆で協議しても他人の目を気にして本音を言わないことが多い。個別の語りかけやそれこそSNSなどがいいかもしれない。ただし、SNSは送信する前に一息入れて再確認、感情のまま送信しないこと。また、大人向けのマナー教室も開くことも検討しても良いのではないか。

3. 登下校時の安全確認とマナー向上について。

2に通じることもあり。少々偏った私見だが、外部からの苦情に過敏になりすぎない見方も必要な時代なのかもしれない。既に実施していることかと思うが、なぜ挨拶が必要かを改めて悟らせる。

- ・挨拶は相手の存在を認める第一歩で、極論すれば挨拶しないこと、つまり相手を認めないこと（無視）はいじめや疎外の第一歩になる。
- ・面識のない人同士は挨拶と共通事項の話題から、お互いに敵意がないことを理解し友好関係が構築され始める。トラブルが発生していても挨拶があれば軽減される可能性が高くなる。何もないと喧嘩状態が激しくなる。

近隣の方々との交流を設けるのも良いと思う。